

4. インフルエンザワクチンの推奨

インフルエンザワクチンは、インフルエンザの発症を予防する効果があり、発症が直接の原因となる学校での欠席日数を減らす効果が報告されています¹⁾。また、ワクチン接種により、インフルエンザによる入院を減らしたという報告²⁾もあります。

2013/14 シーズンのワクチンには、A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1) pdm09 株、A/テキサス/50/2012 (H3N2) 株と B/マサチューセッツ/2/2012 株が含まれています。とくに、現在耐性が問題となっている A(H1N1)pdm09 亜型に対しては、2010/11 シーズンから 4 シーズン連続でワクチンに含まれています。感染症流行予測調査事業 (2013 年度)³⁾によると、A(H1N1)pdm09 亜型に対する抗体保有状況(2013 年 7-9 月：今シーズンのワクチン接種前)は、10~24 歳の各年齢群で 60%以上で、特に 15-19 歳群では 80%以上が HI 抗体価で 40 倍以上の抗体を保有しています。ただ、5-9 歳群では 60%弱となり、0-4 歳群では 25%未満となっています。

現時点では、ワクチン株と流行株とのズレは認められていないようです。まだ流行が始まっていない地域もあります。今シーズンまだ未接種のお子さんにはできるだけ早くインフルエンザワクチン接種をお勧めします。

- 1) Jefferson T., Rivetti A., Di Pietrantonj C., et al.: Vaccines for preventing influenza in healthy children. *Cochrane Database Syst. Rev.*, 2012 Aug 15; 8:CD004879. doi: 10.1002/14651858.CD004879.pub4.
- 2) Talbot H.K., Zhu Y., Chen Q., et al.: Effectiveness of influenza vaccine for preventing laboratory-confirmed influenza hospitalizations in adults, 2011-2012 influenza season. *Clin. Infect. Dis.*, 56 (12) : 1774-1777, 2013.
- 3) 国立感染症研究所 感染症疫学センター／インフルエンザウイルス研究センター：インフルエンザ抗体保有状況 -2013 年速報第 3 報- (2013 年 12 月 27 日現在) 感染症流行予測調査 2013

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/253-idsc/yosoku/sokuhou/4228-flu-yosoku-rapid2013-3.html>

(文責 岡田)